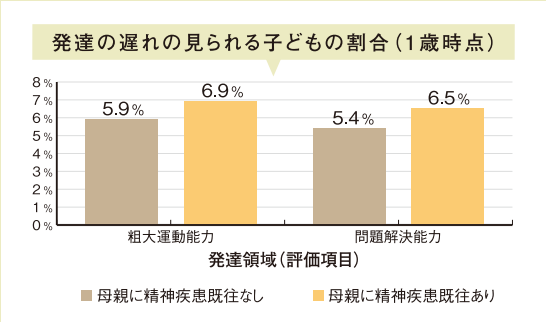
エコチル調査からわかってきたこと

全国で実施されているエコチル調査、新たな研究成果が各拠点から日々発表されています。
今回は2025年に高知ユニットセンターから発表された研究論文を紹介します!

［研究実施者］大原（おぶき） 伸騎 先生
高知医療センター児童精神科
高知大学大学院医学専攻
精神科専門医・子どものこころ専門医

妊娠前のお母さんの精神疾患既往歴と子どもの精神神経発達との関連

エコチル調査の64,389組の母子データを用いて、「母親の精神疾患の既往が、子どもの発達にどう関わるのか」を検討しました。
子どもの発達は、保護者が記入した乳幼児発達スクリーニング質問票「J-ASQ-3」によって評価されました。
その結果、うつ病や不安障害、統合失調症などの精神疾患の既往歴（診断歴）のあるお母さんのお子さんは、1歳時点で「粗大運動」能力や「問題解決」能力の発達がややゆっくりな傾向が見られ、2歳・3歳になると「コミュニケーション」「微細運動」「個人・社会性」も含めた5つの発達領域すべてで、発達がのんびりな子が少し多い傾向が見られました。
こうした結果から、妊娠前の精神的な健康状態は、妊娠中のメンタルヘルスや育児環境などを通じて、お子さんの発達に大切であると考えられます。
とくに1歳頃から発達に差が現れることから、できるだけ早い段階での育児支援や見守りが大切であると感じました。今後は、こうしたご家庭への支援のあり方についても、みなさんと一緒に考えていけたらと思います。



大原先生からのメッセージ

小学校高学年から中学生にかけては、子どもたちの心や体が大きく変化する時期です。ふとしたことで不安定になったり、これまでと違う様子が見られたりと、戸惑うこともあるかもしれません。
そうした変化は、思春期に見られる自然な成長のひとつの過程でもありますが、もし気になる状態が続くようであれば、どうかひとりで抱え込まず、学校や地域の相談窓口、医療機関などにご相談してみてください。
保護者の皆さんがご自身の心の健康にも目を向けながら、お子さんの変化に寄り添うことは、子どもさんにとっても大きな安心につながります。
我々児童精神科医は、医療や教育、福祉の関係者と連携しながら、皆さんの声を大切にして、子どもたちとその育ちを支える環境づくりに取り組んでいます。

［発表雑誌名］
Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports
（日本精神神経学会の機関誌）
DOI : 10.1002/pcn5.70073